

平成 21 年 5 月 14 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19520528
 研究課題名（和文） 知的財産分野における ESP の教授法および教材開発に関する基礎研究
 研究課題名（英文） A Basic Study on ESP Methodology and Material Development
 In the Field of ESP
 研究代表者
 井村 誠（IMURA MAKOTO）
 大阪工業大学・知的財産学部・教授
 研究者番号：60351459

研究成果の概要：

本研究プロジェクトでは、専門科目の教員と英語教員が連携し、知的財産分野における専門英語教育の教授法および教材開発のための各種研究を行った。具体的には、(1) Can-Do リストの策定：知的財産にかかわる職場で実際にどのような英語の能力が求められているのかを、アンケート調査を通じて明らかにし、学習項目として整理した上で、到達度別 Can-Do List を策定した。(2) ジャンル分析に基づくコーパス研究：英文特許明細書をもとにジャンル・コーパスを作成し、その言語的特徴を明らかにするための検索プログラムを開発した。また判例レビューや特許明細書などのジャンル・テキストを談話分析および英語教育学の観点から分析した。さらに、知的財産分野の基本的な解説書（英文）を電子テキスト化し、知的財産分野に特化した語彙のパイロット調査を行った。(3) フィールド調査による素材収集と教材開発：ワシントン大学ロースクールおよび米国特許事務所、米国特許商標局に赴き、アカデミックな側面とプロフェッショナルな側面の両面から、知的財産分野で用いられている英語のリソースを収集した。なお収集した映像資料・音声資料・文字資料を、それぞれ教材として利用すべく、編集した。(4) 「知的財産英語」のカリキュラム開発：大阪工業大学知的財産学部で開講している、「知的財産英語（基礎・応用）」に本研究プロジェクトの成果を反映させるべく、カリキュラムの開発を進めている。（継続）

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：英語教育

1. 研究開始当初の背景

平成15年に文部科学省が発表した「英語が使える日本人」の育成のための行動計画では、大学英語教育の達成目標として、専門分野や国際社会で活躍する人材に求められる英語力の育成が打ち出され、これに呼応するように、各大学におけるESP（専門分野別英語教育）の取組みが始まりつつあった。しかしながら、我が国におけるESPの受容の歴史はまだ浅く、その理論や教授法は十分現場に浸透しているといえる段階にはなかった。また分野別に見れば、もともと理工系の分野で始まったESPは、医薬・看護系分野にも広がりつつあったが、社会科学系の分野における研究や実践は希少であった。さらに、ESPを行うには、英語教員と専門分野の教員とのコラボレーションが不可欠であるが、実際には確固たる連携体制に基づく共同研究や共同授業実践は、まだほとんど行われていなかった。

一方、国策として知的財産立国を目指す我が国では、知的財産分野にかかわる人材の養成が重要な課題と認識され、平成14年には小泉政権下で「知的財産戦略会議」が発足した。知的財産は技術とビジネス、法律が絡み合う分野であり、この分野で働く者にとって、英語は必須の要件となっている。しかしながら、上述したように社会科学系の分野におけるESPの研究は緒についたばかりであり、法学分野においては、例えば寺内（2004）のように、法学一般を対象とする研究は見られたものの、知的財産分野に特化したESPの体系的な研究は皆無であった。

このような状況を踏まえ、本研究プロジェクトでは、これまでESPの研究と実践に携わってきた英語教員と知的財産の専門教員による共同研究チームを構成し、連携して研究をすすめることになった。

寺内一（2004）『コーパス言語学と英語教育学に基づくアメリカ憲法判例研究のためのESP辞書開発』平成12-14年度科学研究費補助金（基盤研究(B)）研究成果報告書（研究課題番号12480056）。

2. 研究の目的

本研究プロジェクトでは、グローバル化が

進む知的財産分野において、国際的に活躍できる人材の養成を促進する一環として、そのような人材に求められる英語運用能力の育成を図るため、知的財産分野に特化した英語教育の教授法ならびに教材開発について、理論と実践の両面から体系的に研究することを目的とした。

3. 研究の方法

- (1) 企業へのアンケート調査に基づいて知的財産英語のニーズ分析に基づく知的財産英語の学習到達別Can-Do Listを策定する。
- (2) 英文特許明細書などの知的財産分野のジャンルテキストをコーパス化し、ジャンル分析ならびに語彙研究を行う。
- (3) 米国の知的財産関連機関へのフィールド調査を行ない、知的財産英語の素材を収集し、教材開発を行う。
- (4) フィールド調査で収集した素材などをもとに、「知的財産英語」のカリキュラム開発を行う。

4. 研究成果

- (1) ニーズ分析に基づくCan-Do Listの策定
知的財産にかかわる職業には、弁理士をはじめ、特許事務所の職員、企業の知的財産部門の社員、特許翻訳者などがある。これらの職場で実際にどのような英語の能力が求められているのかを、アンケート調査を通じて明らかにし、学習項目として整理した上で、到達度別Can-Do Listを策定した。
- (2) 知的財産分野の英語のジャンル分析とコーパス研究
英文特許明細書をもとにジャンル・コーパスを作成し、その言語的特徴を明らかにするための検索プログラムを開発した。また判例レビューや特許明細書などのジャンル・テキストを談話分析および英語教育学の観点から分析した。さらに、知的財産分野の基本的な解説書（英文）を電子テキスト化し、知的財産分野に特化した語彙のパイロット調査を行った。
- (3) フィールド調査による素材収集と教材開発

ワシントン大学ロースクールおよび米国特許事務所、米国特許商標局に赴き、アカ

デミクな側面とプロフェッショナルな側面の両面から、知的財産分野で用いられている英語のリソースを収集した。なお収集した映像資料・音声資料・文字資料は、それぞれ教材として利用すべく、編集作業を進めている。

(4) 「知的財産英語」のカリキュラム開発

現在大阪工業大学知的財産学部では、専門基礎科目として「知的財産英語基礎」「知的財産英語応用」「ビジネス英語」の3科目を提供しているが、これらの科目を中心に本研究プロジェクトの成果を反映させるべく、カリキュラムの開発を進めている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

神谷健一・田中省作・北尾謙治 (2009)

「言語処理技術と教材作成の連携—データベース・ソフトウェアを用いた英語学習教材の自動作成」『自然言語処理』16, 2, pp.45-58.査読有.

椋平淳 (2009)「ESP の潜在力を発揮させる視座」『JACET 関西紀要』11.

pp.1-13.査読有.

深山晶子 (2007)「ジャンル分析に基づいた ESP アプローチの実践」『時事英語学研究』46, pp. 1-15.査読有.

井村誠・神谷健一 (2007)「英語教育における Learning Management System の導入事例」『大阪工業大学紀要(人文社会編)』51, 2, pp. 47-52. 査読有.

[学会発表] (計12件)

椋平淳「ESP の潜在力再考」大学英語教育学会関西支部 ESP 研究分科会 大学英語教育学会関西支部 ESP 研究分科会 (大阪工業大学 2009年2月24日)

井村誠 「知財英語 フィールド調査報告」大学英語教育学会関西支部 ESP 研

究分科会 (大阪工業大学 2009年2月24日)

深山晶子「ESP のススメ」日本時事英語学会関西支部例会 (神戸市灘区民会館 2008年12月6日)

深山晶子「ESP 教育における英語教員と専門教員の連携のあり方」大阪大学 ESP シンポジウム(大阪大学中之島センター 2008年11月22日)

深山晶子「ESP で仕事のための英語をマスターする方法」長野高専技術振興会主催講演会 (長野高専 2008年10月18日、19日)

椋平淳・桐村亮「企業ウェブ情報を用いたビジネス系 ESP 教材開発とビジネスマインドの醸成」大学英語教育学会関西支部秋季大会 (神戸大学 2008年10月12日)

森正幸「知的財産学部における専門英語」大学英語教育学会関西支部 ESP 研究分科会 (大阪工業大学 2008年2月23日)

井村誠「英文特許明細書コーパスの設計」大学英語教育学会関西支部 ESP 研究分科会 (大阪工業大学 2008年2月23日)

深山晶子「ESP のニーズを知る」英語コミュニケーションセミナー (長野工業高等専門学校 2008年2月9日、10日)

深山晶子「理論から実践へ」日本 ESP 協会セミナー (桜美林大学 2007年10月6日)

神谷健一・永野友雅・北尾謙治「データベース・ソフトウェアを利用したクローズドテスト学習教材の自動作成」社団法人私立大学情報教育協会 平成19年度大学教育・情報戦略大

会 (アルカディア市ヶ谷 東京 私学
会館 2007 年 9 月 5 日)

井村誠 “Designing Genre Corpora –
XML Annotation and Keyword
Search System –” 第 10 回国際語
用論学会 (ヨーテボリ大学 2007
年 7 月 9 日)

[図書] (計 3 件)

井村誠 (2007) 「英文特許明細書コーパス
の設計 – XML タグと検索プログラ
ムの作成 –」 『言語と文化の展望』
高木佐和子 (編) 英宝社, (全 727
頁) pp. 657-673.

深山晶子 (2009) 「専門教員との連携プロ
セスのノウハウ」 『ESP 的バイリン
ガルを目指して』 福井稀少一・野口
ジュディー・渡辺紀子 (編著) 大阪
大学出版会, (全 240 頁) pp.60-73.

深山晶子 (2008) 『Read Aloud! An
Introduction to Sci-Tech English』
アルク. (全 57 頁)

[その他]

井村誠 (編) (2009) 「知的財産分野にお
ける ESP の教授法および教材開発
に関する基礎研究」 (平成 19~20
年度科学研究費補助金 (基盤研究
(C)) 成果報告書) (課題番号
19520528) 大阪工業大学知的財産
学部 (全 131 頁)

井村誠 「<知財英語>フィールド調査奮
闘記」 (大阪工業大学知的財産学部
ホームページ「フィールド便り」
<http://www.oit.ac.jp/ip/>) (2009 年 1
月掲載)

井村誠 (2007) 「第 10 回国際語用論学会
参加報告」 『e-Learning 教育研究』
2, pp. 80-81.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井村 誠 (IMURA, Makoto)
大阪工業大学 知的財産学部 教授
(Professor,
Osaka Institute of Technology)
研究者番号 : 60351459

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

森 正幸 (MORI, Masayuki)
大阪工業大学 知的財産学部 教授
(Professor,
Osaka Institute of Technology)
研究者番号 : 40388351

深山 晶子 (MIYAMA, Akiko)
大阪工業大学 知的財産学部 教授
(Professor,
Osaka Institute of Technology)

研究者番号 : 80301646

椋平 淳 (MUKUHIRA, Atsushi)
大阪工業大学 知的財産学部 准教授
(Associate Professor,
Osaka Institute of Technology)

研究者番号 : 00319576

ウィリアム フィゴニー
(FIGONI, William)

大阪工業大学 知的財産学部 准教授
(Associate Professor,
Osaka Institute of Technology)

研究者番号 : 20298805

神谷 健一 (KAMIYA, Kenichi)
大阪工業大学 知的財産学部 講師
(Lecturer,
Osaka Institute of Technology)

研究者番号 : 50388352